

ユスト高山右近の生涯と信仰

95

北陸の使徒、右近

関ヶ原の戦いの後、家康は徳川政権をゆるぎないものにするために、様々な動きを起こしていました。

キリシタンに関して、家康は秀吉による迫害を緩めはしましたが、書面をもって撤回せず、諸大名には暗黙のうちにキリシタン禁止を徹底していました。家康はキリシタンが自分の許容範囲を超えたと感じた時には、いつでもそれを押さえつけることができる法的根拠を留保していたのです。

そのため、日本の教会は家康の顔色を窺いつつ、地方での小さな迫害に耐えながら、ミサをはじめとする教会行事を続けていました。しかし洗礼については、

大名の間に希望者はありましたが、大々的に授けることを避けていました。ユスト高山右近について、家康のもとで大名に返り咲くのではないかとの希望的観測がありました。右近から家康に近づくことはせず、家康も右近に一目を置きながらも右近を用いようとはしませんでした。

家康が幕府を開いた江戸から遠く離れた金沢で、右近の静かな生活が家族とともに始まりました。右近は前田利家から厚い信任を得ていましたが、その後継ぎである利長はいっそう右近を手厚くもてなしました。

右近のもとには、高槻、明石からの家臣が集まり、その地方のキリシタン信徒の中心にもなっていました。右近の家族の事情について、

て、資料はごく限られています。右近の長男ジョアンは、キリシタン武士トーマスの娘と結婚し、娘のルチアも利長の重臣横山長知の長男横山康玄と結婚しています。後に康玄も洗礼を受けます。慶長14(1609)年の未完の書簡に、数か月の間に、右近の家族に不幸が続いたとの記録があり、長男、老母マリア、長男の妻が亡くなったと報じています。それは右近にとっても過酷な試練でしたが、三人とも塗油の秘跡を受け、死の準備を整え、真のキリシタンとしてこの世を去りました。

右近は、前田領である加賀、越中、能登の北国と呼ばれる三国で布教活動を展開しました。

すでに右近は、父ダリオとともに、金沢の教会を開いていました。その基礎の上に、右近はさらに教会を

発展させようと尽力します。

聖パウロは、異教徒の多い地で苦勞を重ねながらイエスの福音を宣べ伝え教会を設立し、異邦人の使徒になりました。その姿に北国での右近の姿が重なります。右近は、北国の使徒となったのです。

慶長6(1601)年頃、小西行長に仕えていたために加藤清正から追放された内藤飛騨守如安と息子トーマスを受け入れました。さらに慶長12(1607)年には、キリシタンの宇喜多休閑も右近の執り成しで金沢にやってきました。この二人は、右近の家臣とともに教会の中心を担うようになりました。

慶長10(1605)年には、ジェロニモ・ロドリゲス神父と一人の修道士を招き、それにかかわる費用を右近がすべて負担しました。右近の働きによって、次第に教会の建物も整ってゆきました。

ユスト高山右近の生涯と信仰

「カテキズムの学び」

第27回 新型コロナウイルスとカテキズム(その6)



再び大阪府に緊急事態宣言が宣言され、サクラファミリアでの講座も中止せざるを得なくなりましたので、「新型コロナウイルスとカテキズム」の続編をお送りします。

ウイルス感染拡大の脅威にさらされ続けると、言いようのない不安に襲われることがあるかもしれません。不安とは心の平和に欠ける状態のことですが、どうすれば心の平安を取り戻すことができるのでしょうか。カテキズムには神様が与えてくださる平和について次のように列挙しています。

堅信式を締めくくるのが平和のあいさつです。(1301番)

ゆるしの秘跡と呼ばれるのは、……神が悔い改める者にゆるしと平和をお与えになるからです。(1424番)

病者の塗油の秘跡が与えてくれる第一の恵みは、……平和と勇気を与える恵みです。(1520番)

叙階式で司教に対して従順を約束し、式の終わりに司教と平和のあいさつを交わします。(1567番)

このように、神は秘跡の恵みを通して平和を与えてくださるという説明です。なぜなら、「霊の結ぶ実」(ガラテヤ5・22)の一つである平和は神からの恵みであり、秘跡はそれを直接与えてくれる手段だからです。そういう意味では、聖体の秘跡が恵みの源そのものですから、ごミサで聖体をいただくことは、平和を保つためにもっとも効果的です。

けれども、パンデミック下においてはこれらの秘跡に与ることが難しい状況です。ではどうすればよいのでしょうか？カテキズムは、主の祈りについての箇所でご述べています。

「わたしたちの糧を」わたしたちにいのちをお与えになる御父は、生きるために必要な糧や「時機に応じた」物的・霊的善をすべてお与えにならないはずはありません。イエスは……尽きないさまざまな不安や心配からわたしたちを解放したいと望んでおられるのです。(2830番)

不安に駆られる日々だからこそ、落ち着いて「主の祈り」を唱え、心の平和という日々の糧を祈り求めていきましょう。(文 酒井俊弘補佐司教)

バザーに関するアンケートご協力をお願い

『大阪カトリック時報』は、コロナ禍中の小教区のバザー実施の現状を取り上げようと考え、8月下旬、各小教区に向けてアンケートの案内を出しました。コロナ禍2年目となる今年、バザーを開催するかしないか、するとしたらどのような催しを企画しているか、バザーに関するご意見など、10項目の質問を用意しました。各小教区にお送りしたFAXのリンクから、アンケートにアクセスできます。締め切りは9月30日(木)です。ご協力に感謝いたします。

(時報編集部)

「生きたる」難民移住者

憎たらしい人

Lさんは憎たらしい人です。

Lさんは夫の暴力から逃れ、沖縄から大阪に転居してきました。それまでは沖縄の行政機関が母子を保護したのですが、ケースワーカーが言うには、Lさんは約束事を守らず身勝手な、自分に都合の良い話だけを信じ、世話になる人に嫌な物の言い方をして周囲とのトラブルが絶えないのだそうです。「これは言葉や文化の壁ではなくLさんの持つ特性のようです。協力したベトナム人のシスターが怒って関



わりのやめましたから」とケースワーカー。確かに大阪に転居してからLさんはベトナム人たちとぶつかりました。してもらったことに礼を

わりのやめましたから」とケースワーカー。確かに大阪に転居してからLさんはベトナム人たちとぶつかりました。してもらったことに礼を

妊娠したといったら、とても怒られ、バカと怒鳴られました」「え、バカと言ったの」「はい。私はバカですから仕方ないです。Lさんは上を向いてタオルで目を覆いました。

私は福祉課に電話をし「バカ」発言をした人を呼び出しましたが、窓口はその発言者が自

「性格が憎たらしいからこうなった。身から出た錆だ」と世間が嫌うことと、その人の困窮ぶりを救うことは別問題です。福祉課の「バカ」発言は論外にしても、私たちに「自分が助ける相手に善人であるよう要求する欲」があることを知

「バカ」発言をした人を呼び出しましたが、窓口はその発言者が自

「バカ」発言をした人を呼び出しましたが、窓口はその発言者が自

カトリック墓地 納骨堂・納骨所 使用者募集

大阪教区の信者の方のみがお申込みいただけます。詳細は資料をお送りさせていただくほか、インターネットでもご覧になれます。教区ホームページ上のこのバナーをクリック

カトリック墓地 納骨堂・納骨所

資料請求やお問い合わせは 教区本部事務局 管理課 竹中まで ☎ 06-6941-9705



わたしは復活であり、命である。ヨハネ 11:25

